

木古内町での暮らし入門

のびのびと成長する子どもたちの姿に感動の日々です！

木古内町出身の和宏さん。高校を卒業して大阪の専門学校へ進学し、建築デザインを学び就職。看護師の貴美子さんと出会い結婚。その2年後奈良へ移りました。2015年、琳太郎くんがまだ7カ月の頃に木古内町へ移り住みます。「覚悟という覚悟はなく、ワクワクした感覚で移住してきましたね」と、貴美子さんは笑います。和宏さんは、お父さんが営んでいたブランド米「ふっくりんこ」の生産と、いまやブランド牛に成長した「はこだて和牛」の繁殖業を継ぐ決意でUターン。建築系の図面から施工までを生業にしていた和宏さんと貴美子さんは最初、戸惑いながらもいまの仕事に向き合いました。「始めて牛の出産に立ち会ったときには、なにをしていいのかわからず、立ちすくんでしまいました」と和宏さん。「でも、地域の人や農家仲間から助けられて自信を持って取り組めるようになったんです。本当に有り難かったですね」。晴琉くんも生まれて、自然の中でのびのびと子育て出来る木古内町は理想の環境なのだそう。「木古内町は、四季の移ろいがはっきりしているし、梅雨もないので、快適に、心地良く生活できる住みやすいまちだと思いますよ。冬はちょっと雪が多いのですが、薪ストーブの温かさとゆらゆらと揺れる炎を見ているだ



子育て編

けで癒されるんです。子育ても、中学生までの医療費無料など、まちからの支援も充実していますよ。木古内町の人には心がオープンな方が多く、ほどよい距離感で子どもたちを見守ってくれるそうです。「夜の星空や、みそぎ浜の夜明けまえの美しい空には感動します。地域との繋がりもしっかりしている木古内町で、ぜひ暮らししてみませんか？」。

PROFILE

手塚和宏 さん(36歳)

貴美子さん(34歳)
琳太郎くん(4歳)・晴琉くん(2歳)

◆移住歴/3年 ◆職業/農業・畜産業

木古内町出身の和宏さんが、奈良県出身の貴美子さんと琳太郎くんを連れて帰ってきて3年。父が営むブランド米「ふっくりんこ」とブランド牛「はこだて和牛」の生産に従事する。



(左)ブランド牛「はこだて和牛」の牛舎。母牛35頭から、一年を通して仔牛が生まれてくる。

(右)トイプードルのココちゃんも、奈良県から一緒に木古内町へ移住してきた大切な家族だ。

私の使命は、木古内町の存在感を魅せる仕事だと思っています。

大学を卒業後IT周辺機器メーカーへ就職した浅見さん。東京や横浜など首都圏で13年間の営業マン時代を過ごすも、社会や公に貢献しているのかと自問自答し、意を決して退職。北海道新幹線開業の3年程前、東京で木古内町役場担当の熱い思いを聞き、地域おこしを通して「公」に貢献できるのではないかと、知り合いの誰もいない木古内町へ移り住む決心をしたそう。「始めは正直、寂しい感じのまちだなと思いました(笑)」。でも、その思いはすぐに変わったと言います。「北海道新幹線開業に向けて、まちの気運が高まっていた時期なんですね。町民のみんなが期待感を持って、盛り上がっていたんです。体験観光の手伝いなどを通して多くの人たちと出会う中で、心に変化が現れてきました。「木古内町の人には閉鎖的などころが全くなく、すぐに打ち解けられました。よそ者を、素直に受け入れてくれる風土があるんですよ。有り難かったですね」。

生活面でも、ショッピングモールはないけれど買い物にも支障はないし、不安に感じられる冬の雪も慣れれば大丈夫と言います。「雪道の運転はスピードを出さなければいいことで、雪掻きは日頃の運動不足解消には最適な環境なんです」。どこまでも前向きな性格が、



就業編

木古内町の暮らしには合っているのでしょう。「飛び込んで来れば活躍できるチャンスはあるまちですし、なにより人が温かいです」と、先輩移住者としての心構えを教えてくださいました。もっと木古内町へ立ち寄りてもらえるような、存在感のあるまちづくりを目指している浅見さん。道の駅の観光コンシェルジュとして笑顔が弾けました！

PROFILE

浅見尚資 さん(44歳) 千葉県出身

◆移住歴/6年
◆職業/道の駅みそぎの郷きこない観光コンシェルジュ

木古内町の地域おこし協力隊として2012年7月に移住を果たす。3年間の協力隊員時代に培った観光ノウハウと人脈を最大限に活かしながら、木古内町の発展を加速させている。



(左)年間50万人が訪れる「道の駅みそぎの郷きこない」。道の駅ではお土産ショッピングを満喫できるほか「アル・ケッチャーノ」のオーナーシェフ奥田政行氏が監修した「どうなんde's Ocuda Spirits」で木古内イタリアンが楽しめる。

(右)道南西部9町の特産品を中心に北海道の逸品を集めたお土産処。新しい商品にも浅見さんは目を光らせている。